



石器時代の太古から刃物は人が食糧を得るための武器であり、動物や魚をさばき、植物を刈り育て、家を作る道具でもあった。他の動物では獲得し得なかった人間ならではの道具。それが火であり刃物だ。

火も刃物も扱いを誤れば危険なものとなる。ナイフによる殺傷事件などもあって、「青少年に刃物を使わせない」というむきもある。しかし「キャンプの食事はリーダーに作ってもらいます」なんてことではカブスカウトもつとまらない。

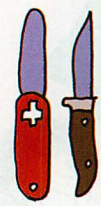
こんな時代だからこそ、刃物の正しい扱いについて、改めてしっかりと身に付けておきたい。



ナイフはスカウトの最も身近な刃物。この扱いについては『スカウトハンドブック』に詳しいので、ここでは省略するが、安全な扱いの基本はナイフにも共通するものだ。

正しい扱いを身につけてこそその安全

キャンプの刃物はこう使う



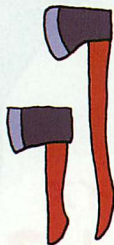
ナイフ

食べ物を切り分ける、木を細かく削るなど身近なマイ刃物。スカウトならその扱いは「おまかせ」といえるようでありたい。



ナタ

枝払い他多様に使える野外の万能刃物。これがあればキャンプ生活は心強い。主に片手で扱う。



オノ (アックス)

木を切り倒し、太い幹を切断し、薪を割る力強い刃物。短い片手用から長い倒木用までバリエーション豊富。

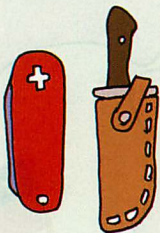


《カーボン・ニュートラル》

木は成長しながらCO₂を吸収・蓄積する。燃やせば空気中に放出されるが、大気から吸った分がせいぜい数十年のサイクルで戻るだけ。地上の炭素量はほとんど変わらない。これを「カーボン・ニュートラル」という。
何万年もかけて大量の炭素をためこんだ地下資源を燃やすから地上の炭素が急激に増えて地球温暖化が進む。これと違って、枯れ枝や間伐材などの薪は環境にやさしい燃料なのだ。

＜刃物基本安全ルール・全種共通原則＞

刃をしまう



基本的に常に鞘式のものは鞘に収め、折りたたみ式のものもはたまたま。実際に使用する場面でのみ刃を出す。

バッグに入れる



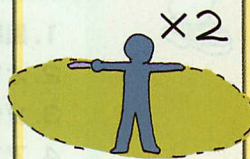
種類を問わず、刃物はフィールドに到着するまで鞆などにしまう。鞆に入っているからベルトにつける、というのはNG。

刃を人に向けない



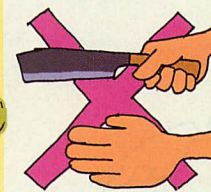
作業中も同様。動き一連を考慮して刃が向くほうに人がいないようにする。手渡しの方法も班で確認し練習しておこう。

安全スペース確保



最低でも半径＝(腕＋刃物の長さ)×2の円に人を入れない。背後からは刃物使用中と気づかず近づいてしまう危険があり特に要注意。

刃の進む先に手を置かない



作業時、刃の進む先に手を置かない。薪など切るものを押える手の配置にくれぐれも注意すること。

正しい置き場所に



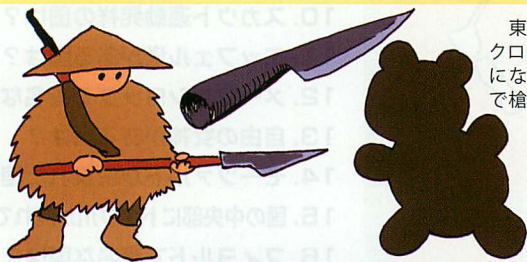
テーブル上など目につきかつ邪魔にならない場所を定め班で共通理解する。作業中の小休止でも地面に置かないよう工夫。

★メンテナンスの重要性：切れない刃物ほど無駄な力が入り危険。汚れた刃物は万一負傷した場合衛生的な心配もある。刃物は常によく砥ぎ、清潔に保とう。



ナタ

主に枝払いなどに用いられる物が多いが、薪割りや動物の皮剥ぎ、魚さばきもする万能選手もある。広い用途を持つナタ。オノよりコンパクトで携行にも便利だ。



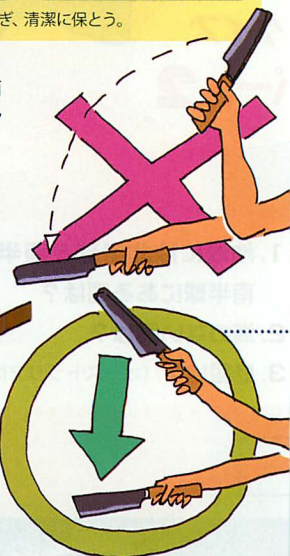
東北のマタギなどが使うクロナガサは握りの部分が筒になっていて、棒を差し込んで槍にもなるのだ。



幹から枝をとる



枯木や倒木から枝をとる場合は幹に正対して利き腕側でナタを振る。刃がはねたり空振りした場合でも、身体のほうに刃がこないのが安全だ。立っている木の枝は上から叩かず、正面から当るといい。



回転運動にせず、ナタ自体の重さを利用して直線的に振る。回転運動は空振りしたりあっさり切断してしまったときに刃が自分の身体の方へ向かいやすく、また遠心力がすっぽ抜けるほうに働き危険なのだ。

オノ(アックス)

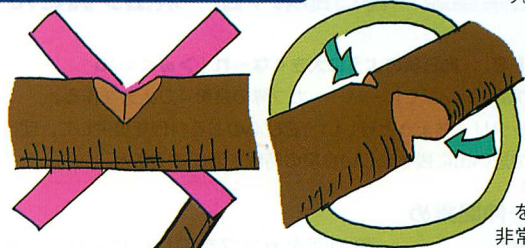
太い薪を割ったり、幹を切断したり、立ち木を切り倒したりもするパワフルな道具。正しい扱いを身につければ、ノコギリでないし無理かと思えるような太い木も、より素早く切断できる。



オノでの薪割りには、割れた薪が飛ぶなど二次的危険もあるので安全距離を十二分にとる。担がずに真上に自然に振り上げ、オノ自体の重みで直線的に振り下ろす。このとき、ひざを曲げて体をしずめるようにするとよい。

回転運動にならないよう注意。空振りして自分の足を負傷したり、オノがすっぽ抜けて飛んでいく危険も増す。

幹の切断



上に乗れるほど大きな倒木や丸太を切断するときは上から打たず、横から打つ。半分くらいいきで反対側から打ち込むとき、倒木を裏返しにするのは非常に困難だからだ。

枝の切断

切断したい箇所に刃を当て、やはり枝ごと振り上げ重みを使って打ちつける。切り株などの平らな面より、倒木や寝かせた丸太などを台座にすると、打点を定めやすい。右利きなら、台座の中央線より左に身を置き、台座のやや右斜め側に打ちつけるようにする。



立ち枯れた木を倒す

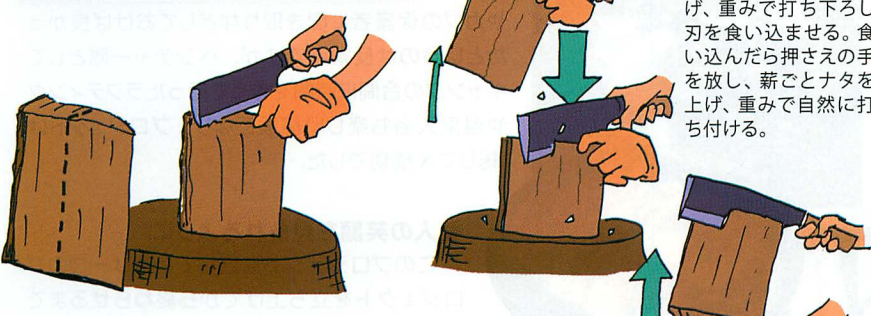
倒す側からV字に半分ほど切り込みを入れ、反対側の少し上を切り込んで倒す。

右利きの場合、左手は柄の端をしっかりとつまむように握り、ヘッド近くを右手で支えて打点を定める。そのまま振りかぶり、右手を左手までスライドさせながら打ち込むと、ヘッドの重さを利用した自然なスイングになる。右手で力むと打点がぶれ、体力も消耗する。

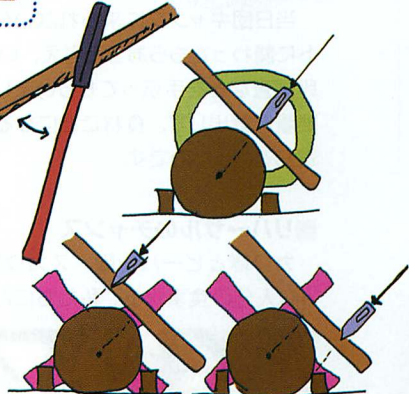


小さな薪を細かく割る

薪に刃を当て、薪とナタを一緒に持ち上げ、重みで打ち下ろし刃を食い込ませる。食い込んだら押さえの手を放し、薪ごとナタを上げ、重みで自然に打ち付ける。



刃は切断する枝に対して直角でなく斜めに当てると切断しやすい。また台座に打点が素直に当たると注意。ずれると枝が折れて激しく飛んだり、手首を痛めたりしやすい。

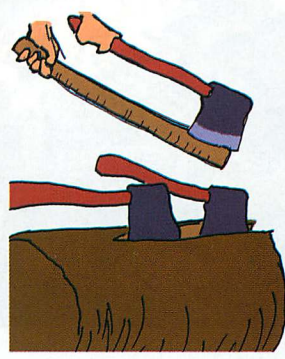


薪や太枝の縦割り

割りたい材の端に側面から平行に刃をあて、材ごと台座に打ち付ける。手前に裂くように刃を打ち込むのではなく、真横から割る感じ。割れ目が入ったらオノを左右に捻ればだいたい割れる。

持ち上げられないほど大きな材は2本のオノを交互にクサビのように用いて割る。最初のオノで出来た割れ目の終わるところに次のオノを当て木槌などで打ち込むことを繰り返すのだ。

このときも、根に近い方から刃を入れていくとよい。



枝を打つときは、根の側から打つほうが刃が入りやすい。また、先から入れると裂けるように切断面が下へ伸びてしまいやっかいだ。

手で持てる枝から小枝をとるときは、枝を逆さに立てて持ち、根に近い側から打つとよい。



薪を持つ手は決して刃の進む先に置かない。また万一に備え軍手や皮手袋をしておく。